

新型コロナウイルス対策と豪雨災害からの復旧・復興に取り組み、 明るく元気な岡山県を取り戻します。

5つの政策を実行し、「**生き生き岡山**」の実現を目指します。

政策1 教育県岡山を復活させます。

■子どもたちの学力が伸びる仕組みづくり ■道徳教育を核とした規範意識の確立と子どもたちの体力の向上 ■不登校等を生まない学校づくりと非行防止対策の推進 ■ICTを活用した教育とスマホ・ネット対策の推進 ■グローバルに活躍できる人材の育成

政策2 産業を振興して、岡山県を元気にします。

■地元企業の「稼ぐ力」の強化による地域産業の振興 ■生産・雇用の誘発効果が期待できる企業の誘致 ■安定的な雇用の拡大・確保と県民所得の向上 ■企業を支え、発展を担う人材の育成・確保と選流・定着支援 ■意欲や能力に応じて活躍できる働き方の推進 ■滞在型観光の推進とインバウンド戦略の展開 ■儲かる農林水産業の加速化

政策3 未来への投資として、次世代の県民を応援します。

■若い世代の結婚から子育てまで切れ目ない支援 ■子育て世代が安心して働ける環境の整備 ■乳幼児期における教育・保育の充実

政策4 子どもから高齢者まで県民誰もが安心して暮らせる地域づくりを進めます。

■地域における医療提供体制の整備と福祉介護サービスの質の向上 ■互いに助け合う地域の防災力の充実強化 ■犯罪抑止対策、交通事故防止対策の推進 ■多様な主体の活躍による持続可能な中山間地域等の形成促進

政策5 誇りを持って暮らせる岡山県を創ります。

■暮らしやすさを生かした移住・定住の促進 ■地域の特性や魅力を生かしたまちづくりの支援 ■文化とスポーツの力を活用した地域の活性化 ■首都圏や海外に向けた岡山の魅力発信

新型コロナウイルス感染症への対応

国内での感染が確認された直後から、県民への呼び掛けやまん延防止対策を行うことにより、感染を拡大させることなく、第一波を乗り切りました。また、社会経済活動を維持するため、県民の声を聞きながら、スピード感を持って、500億円を超える補正予算を数次にわたって編成し、大きな影響を受けた事業者等に対する各種の支援策を打ち出しました。皆様のご協力もいただき、感染者数や重症例を低く抑えることができています。県民の命と暮らしを守るため、引き続き、医療提供体制の拡充と事業者等を支援するための対策に取り組みます。

■新型コロナウイルス外来の設置 ■PCR等の検査体制の強化
■入院病床・宿泊療養施設の確保など医療提供体制の拡充
■雇用を守り、事業を継続するための事業者支援 ■落ち込んだ観光需要等の回復

平成30年7月豪雨災害からの復旧・復興

発災直後、人命救助を最優先で行いながら、応急対策に取り組んだ後、復旧・復興ロードマップを策定し、被災者の生活再建支援や地域産業の復興支援、公共施設の復旧などに力を注いできました。仮設住宅の入居者はピーク時の約2割となり、被災した事業者の約9割が営業を再開し、県管理の河川、道路などの原形復旧工事は約8割の箇所ですべて完了しています。被災された方々が一日も早く住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、今後とも取組を推進します。また、豪雨災害から得た教訓を生かし、県内全域で防災・減災対策を進め、より災害に強い岡山の実現を目指します。

■被災された方々の見守り・相談対応への支援 ■被災した河川や道路などの原形復旧
■再度災害防止 軽減に向けた堤防高上げなどの河川改良復旧
■県内全域での河道掘削 樹木伐採による河川の流下能力の維持・向上
■各市町村の地区防災計画、避難支援個別計画などの作成支援

プロフィール

- 生年月日：昭和41年(1966年)7月29日
- 家族：妻と娘二人
- 略歴：

昭和54年(1979年)3月	岡山大学教育学部附属小学校卒業
昭和57年(1982年)3月	岡山大学教育学部附属中学校卒業
昭和60年(1985年)3月	岡山県立岡山大安寺高校卒業
昭和60年(1985年)4月	東京大学理科一類入学 (1年間休学し、アメリカで語学研修)
平成2年(1990年)3月	東京大学工学部卒業
平成2年(1990年)4月	外資系経営コンサルティング会社入社
平成5年(1993年)6月	同社退職
平成7年(1995年)6月	スタンフォード・ビジネススクール修了 MBA取得 その後、約1年間、フランスで料理を学ぶ
平成8年(1996年)5月	株式会社天満屋取締役就任
平成10年(1998年)5月	株式会社天満屋代表取締役社長就任
平成24年(2012年)5月	株式会社天満屋代表取締役社長退任
平成24年(2012年)11月	岡山県知事就任(11月12日)
平成28年(2016年)11月	岡山県知事再任(11月12日)

いばき隆太